

2014（平成26）年度上半期活動報告

愛知大学国文学会

会長 黒柳 孝夫

幹事 和田 明美

愛知大学国文学会は、愛知大学日本語日本文学関係（文学部・短期大学部所属）の教員、昭和25（1950）年文学部文学科国文学専攻時代からの卒業生と、現在の日本語日本文学専攻の在学生によって構成された伝統ある学会です。学会誌『愛知大学国文学』は学術雑誌に認定され、年1回の刊行で2014年度には54号を数えます。この学術雑誌は全国200を越える大学や研究機関（韓国含む）にも送付しており、公的な教育研究機関が相互に交流を図りつつ学術文化の発展に寄与しています。また、毎年6月に開催される学会は、卒業生（80代～20代）や在学生参加はもちろんのこと、広く一般にも公開しており、恒常的に「岡崎日本文化講座」をはじめとする地域に根差した活動にも力を入れています。

◇平成26（2014）年度上半期（4/1～9/30）の具体的活動

(1) 平成26年度 愛知大学国文学会開催

日時：平成26年6月7日（土）11：00～13：00

場所：愛知大学豊橋校舎研究館1階 第1・2会議室

▼新任者講演会 11：00～12：00

テーマ：井原西鶴『武家義理物語』第六巻の二

～左の腕を断つ話「表向きは夫婦の中垣」を読む～

講師：空井 伸一（愛知大学准教授）

▼評議会・総会 12：00～13：00

(2) 平成26年度 岡崎日本文化講座開催（蒲郡市民教養講座30周年を受けて岡崎・新講座）

日時：平成26年9月27日（土）13：30～16：30

場所：岡崎市図書館交流プラザ・りぶらNo.103

▼講演会 13：30～15：30

テーマ：教養としての日本文化～美意識と自然観を中心に～

講師：黒柳 孝夫（愛知大学短期大学部長・愛知大学国文学会会長）

司会：和田 明美（コメンテーター兼・愛知大学文学部教授）

▼座談会・懇親会 15：30～16：30

(3) 『愛知大学国文学』第54号の発行準備（9/20原稿締切、コムラへ入校）

障害学研究会 2014年度上半期活動状況

今年度上半期は、これまでの研究活動において得られた成果を、書籍にまとめるための会合を開催してきた。

8月3日（日）および9月20日（土）には車道キャンパスにおいて、分担箇所の進捗状況を確認し、各部ごとの整合性をとるための確認、内容や執筆者の見解についての議論を積み重ねた。

書籍については、以下が決定している。タイトルを『愛知の障害者運動』（仮）とし、第Ⅰ部から第Ⅳ部までの4部構成とすること、序論は「障害者運動の背景にあるもの」と題し、名古屋市を中心とする愛知県の地域的特徴、時代的背景、政治・教育をめぐる状況の理解を助ける内容とすること、第Ⅰ部は、児島美都子先生にご講演いただいた内容をもとにし、愛知県における「障害者運動の歴史」を概観すること。さらに第Ⅱ部においては、障害学研究会のメンバーが中心となって開催した、障害学会大8回大会シンポジウム（2011年愛知大学）の内容を再録すること。つづく第Ⅲ部は、本研究会が中心的にとりあげてきた、「ゆたか福祉会」「わっぱの会」「AJU 自立の家（重度障害者の生活をよくする会）」の3団体に焦点化し、それぞれ講演録、インタビュー記録をもとにまとめていくこと。第Ⅳ部については、研究会での講演をもとに、視覚障害（「名古屋ライトハウス」）、精神障害（「名古屋うつ病友の会」）、聴覚障害（「日本聾史協会」）、比較的新しい障害種別を超えた団体「愛知障害フォーラム（ADF）」などについてまとめること。その他、巻末には団体に関連する年表を付することとしている（2015年2月刊行予定）。

なお、下半期は、上記でもとりあげた ADF との共催により、米国国務省国際障害者の権利に関する特別顧問であり、アメリカの障害者運動を30年にわたり牽引してきた、ジュディ・ヒューマン（Judith E. Heumann）氏を招聘した講演会を開催する予定である。

2014年度上半期活動報告 心理学談話会

活動の目的

人間に関する科学は、一領域一分野で人間全体を把握することは不可能である。全体としての人間を知るには、心理学各領域および隣接諸科学との交流が必要となってくる。本会はこうした心理学および隣接諸科学の研究者たちとの学問交流による、人間理解の深化を目的とするものである。

年間の活動計画

心理学談話会は年8回の開催を基本とする。うち6回は本学心理学コースの教員6名が1回ずつ研究発表を行い、他の2回は学外の研究者を招いて行う。8回中3回は一般公開とする。また、心理学談話会で発表した内容は原則として文学論叢に投稿することとしている。

2014年度上半期(2014.1.1～2014.9.30)の活動状況

2014年度の前半は以下の3回を開催した。

第7回 2014年4月21日(月)「高齢者介護施設従事者の高齢者への関わり方と大学生が抱く高齢者観の諸相に関する調査報告」講師：鎌倉利光(文学部准教授) 於：愛知大学豊橋キャンパス

第8回 2014年5月19日(月)「サクラを使わない社会的同調実験による同調要因の検討～顔記憶課題を用いて～」講師：井藤寛志(文学部助教) 於：愛知大学豊橋キャンパス

第9回 2014年7月7日(月)「コミュニケーション研究に小鳥を用いるのは何故か？」講師：関 義正(文学部准教授) 於：愛知大学豊橋キャンパス

言語学談話会 活動報告

1. 公開講座「言語」

- ① 4月19日（土） 豊橋校舎研究館第1・第2会議室
「中国の大学における日本語口頭発表の指導」
小池保利（元北京聯合大学日本語講師）
- ② 5月10日（土） 豊橋校舎研究館第1・第2会議室
「戦時期日本の対タイ宣伝」
加納 寛（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）
- ③ 5月31日（土） 豊橋校舎研究館第1・第2会議室
「7～9世紀のアイリッシュ系写本と英国系写本について」
田本健一（愛知大学国際コミュニケーション学部教授）
- ④ 6月21日（土） 豊橋校舎研究館第1・第2会議室
「英語分裂文を探る」
北尾泰幸（愛知大学法学部准教授）
- ⑤ 7月12日（土） 豊橋校舎研究館第1・第2会議室
「韓国の現代作家・李外秀の作品世界」
田川光照（愛知大学経営学部教授）
- ⑥ 9月13日（土） 車道校舎本館第3会議室
「イメージで捉える感覚英文法：認知言語学を参照した英語学習法」
今井隆夫（愛知県立大学他、講師）

2. 公開講座「現代ヘブライ語と聖書ヘブライ語を学ぶ会」

講師：川口誠（日本聖書翻訳研究会会員、牧師）

4月12日より9月26日まで、8月を除き第2・第4土曜日に開催。

会場：豊橋校舎語学教育研究室。

3. 公開講座「新約聖書の福音書を音読する集い」

講師：川口誠（日本聖書翻訳研究会会員、牧師）

4月12日より9月26日まで、8月を除き第2・第4土曜日に開催。

会場：豊橋校舎語学教育研究室。

カルチュラルスタディーズ研究会

檜村愛子

9月20日土曜日、ワークショップ『社会学 X 遠藤一郎——アート界に旋風を巻き起こすモバイルソーシャリティの可能性』を、634教室で行った。登壇者は、遠藤一郎（未来芸術家）、土屋葉、檜村愛子、中村英敏（コーディネーター）、吉野さつき。

世界的に活躍する、現代アーティスト遠藤一郎は、未来へ号で、日本を走り回り、GPSで軌道を字にしたり、匍匐前進をしたり、モバイルソーシャリティをアートとしている。このアートを社会的に見た場合の可能性について議論した。

学内外からの聴講があり、映像録画も行った。

座談会の後、連風づくりを参加者で行い、グラウンドで連風上げを行った（未来龍愛知大学大空風）。また、「未来へ号」へのアートペイティングも行った。